

2005年後期「全学共通科目アンケート」結果の概要報告

基礎教育センター・准教授
舩本 直文

はじめに

2005年度後期にFDの一環として実施された「全学共通科目アンケート」調査結果の概要を報告する。このアンケート調査は、首都大学の新しい全学共通科目が実施されて1年が経過した時点で、今後の教育改善に生かすために、本学の全学共通科目が学生たちにどのように捉えられているかを把握するために実施された。なお、回収率は78.4%と高く、これは全学必修科目である「実践英語」の担当教員の協力のたまものであることを報告しておきたい。この調査結果には、首都大学の全学共通科目に対する各学部・学系の学生の意見が十分に反映されていると考えられる。

結果の概要の一部は2006年2月に開催された平成17年度第2回FDセミナーにおいて報告した。

1. 実施の概要

実施主体：FD委員会および基礎教育部会

対象者：首都大学東京の1年生（1,617名）

実施方法：後期の「実践英語」の授業にて配布・回収（平成17年12月9日～26日）

回収率：1,268票／1,617名=78.4%

7系列別回収結果一覧（表1参照）

調査項目の構成と尺度（別紙調査票参照）

- ・5段階尺度・マークカード方式：全18問
- ・全学共通科目の認知に関わる項目：4問
- ・全学共通科目の履修に関わる項目：3問
- ・都市教養科目群に関わる項目：5問
- ・全学共通科目の評価に関わる項目：5問
- ・満足度：1問
- ・自由記述（1. 改善してほしいと思うこと、2. 良かったと思うこと、3. その他、自由記述）

2. 結果の概要

「全学共通科目の認知関係」（図表1-1）

ここでは、学生達が「全学共通科目がどのようなものなのか」を理解していく項目に関して整理してみた。

「シラバス」：平均値3.47（55.9%肯定的評価／17.5%否定的評価）であり、過半数が科目選択に当たって役立ったと答えている。「履修の手引き」：平均値で3.0（34.5%肯定的評価／32.6%否定的評価）であり、中間の評価を得ている。「4月初めのガイダンス」：平均値が

2.7（24.0%肯定的評価／45.0%否定的評価）であり、全学共通科目についてあまり理解できていないようである。「首都大学のHP」：平均値2.27（9.9%肯定的評価／59.6%否定的評価）であり、全学共通科目の内容や履修方法の理解にはほとんど役立ってはいないようである。しかしながら、この点に関しては、新入生がパソコンの利用が可能な状況にあるかどうか、またその能力を身につけているかどうかという要因にも影響されていると思われる。

「履修関係」（図表1-2）

これらの項目は、学生が履修する上で関係する項目群である。「履修申請」：平均値3.54（59.9%肯定的評価／20.9%否定的評価）であり、問題なく行われていることが推察される。「4月・10月の履修相談」：平均値が2.49（13.5%肯定的評価／44.4%否定的評価）であり、履修計画はあまり評価を得ていない。「時間割」：平均値2.07（11.0%肯定的評価／69.3%否定的評価）という結果からみて、学生達は全く満足していない。これには希望の授業を受講できていない、あるいは早朝から夕方まで必修枠で受講を強制されているなどの要因が推察される。

「都市教養科目群1」（図表1-3）

この図表では、全学共通科目の中で都市教養科目群と呼ばれている科目である「基礎ゼミナール」と「実践英語」に関する評価を示している。「基礎ゼミナール」：平均値2.71（27.1%肯定的評価／42.7%否定的評価）と、あまり高評価を得ていない。「実践英語」では、1. 「NSE=実践的英語コミュニケーション力」：平均値2.91（33.4%が肯定的評価／36.7%否定的評価）、2. 「日本人担当=文章読解の力」：平均値2.73（24.8%が肯定的評価／40.1%否定的評価）であり、あまり評価されていない結果が示されている。

「都市教養科目群2」（図表1-4）

ここでは都市教養科目群の残りの科目を示した。「情報リテラシー」：平均値3.34（51.3%肯定的評価／20.6%否定的評価）であり、まずまずの評価を得ている。「都市教養プログラム」：平均値2.63（19.3%肯定的評価／42.8%否定的評価）であり、評価は低い。「共通基礎教養

科目全体」：平均値3.13（38.2%肯定的評価／25.4%否定的評価）という評価であり、「都市教育プログラム」よりも評価が高い。

「全学共通科目全体への評価」(図表1-5)

この調査項目は、全学共通科目への学生の取り組みの姿勢や成果への項目群である。「積極的出席・意欲的学習」：平均値3.22（41.2%肯定的評価／23.3%否定的評価）であり、まずまずの積極的な受講態度を示していた。「設備・備品への満足」：平均値3.03（30.8%肯定的評価／24.8%否定的評価）であり、中間的な評価であった。特に、前期の成績結果に関わる事項であるが、「成績評価納得」：平均値3.01（35.0%肯定的評価／29.9%否定的評価）であり、ほぼ中間的な評価である。「基礎的学力を身につけた」：平均値2.96（26.6%肯定的評価／26.5%否定的評価、46.2%中間的評価）であり、学生達には1年経過した時点ではまだ判断出来ない様子が見られる。

「全学共通科目全体への満足度」(図表1-6)

この図は「全学共通科目」への満足度を示している。平均値は2.86（24.2%肯定的評価／31.7%否定的評価、41.8%中間的評価）であり、さほど高い評価を得ていないこと、および中間的な満足度を示している。

3. 7系列（学部・学系）別平均値比較（図表2）

図表2の折れ線グラフは学部・学系7系列の比較をしたものである。各系の回答結果の傾向を平均値と比較すると、大まかな傾向として以下のような特徴が見られる。

- 1) 人文・社会系：「実践英語」「HP」への評価が低く、「共通基礎教養科目」「積極的・意欲的」に評価が高い。
- 2) 法学系：「ガイダンス」「履修申請」に評価が高く、「実践英語の日本人担当」に評価が低い。
- 3) 経営学系：「情報リテラシー」に対して評価が高く、「時間割」「成績」「基礎学力」「満足度」への評価が低い。
- 4) 理工学系：ほぼ平均値と同様の結果を示した。
- 5) 都市環境学部：「都市教養プログラム」に高く、「共通基礎」に低い。後は平均的結果を示した。
- 6) システムデザイン学部：「実践英語」「情報リテラシー」に対して評価が高く、「成績納得」に低い評価である。
- 7) 健康福祉学部：すべてに高い評価である。特に「実践英語」「情報リテラシー」「積極・意欲」「成績納得」「満足度」に評価が高い。

このような専門系列間の評価結果のばらつきは、学生たちの事前の能力や専門的な志向の差によるものと推察される。

4. 問18の全学共通科目全体への満足度における「満足群」と「非満足群」の比較（図表3）

この図は、問18で全学共通科目に満足した群とそれ以外の群（非満足群と呼ぶ）がそれぞれの問いでどのような回答傾向を示しているかを全体の平均値とともに示したものである。両群間の差が大きいほど、両群間の満足度に影響したと推察することが出来る。

- 1) 両群間でほとんどの項目に0.5ポイント以上の差がみられた。
- 2) 最大の差は「基礎学力が身に付いたか」という項目であり平均値で1.07の差がみられた。
- 3) 次に、「共通基礎教養科目」「成績納得」「積極的・意欲的」に0.85と差がみられた。
- 4) さらに、「基礎ゼミナール」「英語NSE」「英語日本人」「都市教養プログラム」がこれに続いた。これらの項目に関する判断の差が、全学共通科目の全体的な満足度の差となって現れたと推察される。

5. 学生評価の自由記述の傾向分析（カテゴリー別、キーワード別整理）(表4)

学生の授業評価では、自由記述として、「改善要望点」「よかった点」「自由記述」の3カテゴリーで意見を聴取した。全部で719件の自由記述が寄せられた。「改善要望」に関する自由記述が53.0%と一番多かった。「よかった点」として寄せられた自由記述は17.2%と少なかった。「自由意見」は29.8%であった。キーワード別にみると、全体では「時間割」に関する意見が一番多く20.2%、次いで、「授業内容」が14.0%、「実践英語」が11.7%と続いた。「改善要望」で多かった意見は「時間割」で28.0%、次いで「実践英語」13.1%であった。「良かった点」では「授業内容」が27.4%であり、「実践英語」が14.0%と続いた。「自由意見」でも「時間割」に関する意見が多く見られた（14.1%）。

まとめと課題

今回のアンケートでは回収率が78.4%と高く、得られた回答はほぼ全学部・学系の学生の意見が反映されていると考えられる。

- 1) 授業選択関係：「シラバス」は科目選択に当たって肯定的評価を、「履修の手引き」は平均値=3.0と中間的評価を得た。「4月初めのガイダンス」では、全学共通科目の内容・方法について改善の必要がありそうである。「首都大学のHP」を全学共通科目の理解に役立つようにするにはどうするか、または、その必要があるか、などの検討が必要であろう。「履修申請」は、問題なくスムーズに行われていると推察される。「4月・10月の履修相談」は、履修計画からみて改善の必要

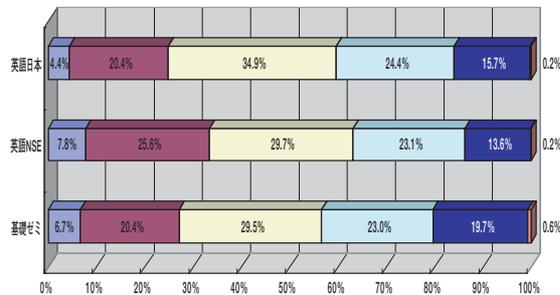
がありそうである。「時間割」に関しては、満足できず、とりたい授業を受講できていないようである。ただし、教務委員会で既にいくつかの改善を行っている。

- 2) 授業関連：平均値：3.0以上であったものは、「情報リテラシー」「共通基礎教養」の2項目であった。
- 3) 全学共通科目：平均値3.0以上であったものは「積極的・意欲的」「設備備品」「成績納得」の3項目であった。
- 4) 基礎学力の平均値は2.96とほぼ中間の評価であり、

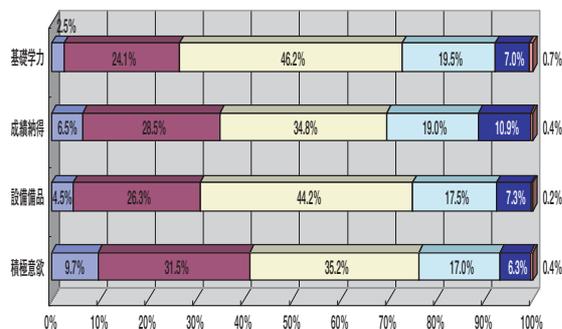
表1. 7系列別回収結果一覧

首都大学 学生数	人数	回収 票数	回収率	自由記述数 (延件数)
人社	228	189	82.9%	162
法学	244	199	81.6%	114
経営	242	168	69.4%	127
理工	267	177	66.3%	76
都市環境	212	192	90.6%	89
システム	223	171	76.7%	91
健康福祉	201	172	85.6%	60
合計	1617	1268	78.4%	719

図表 1-3.都市教養科目群



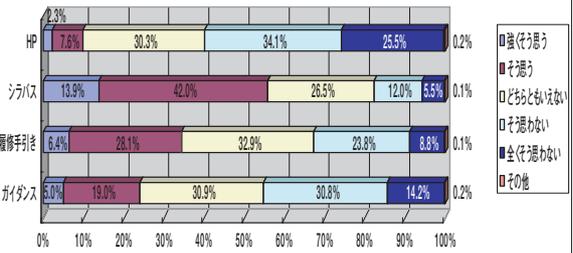
図表 1-5.全学共通科目への評価



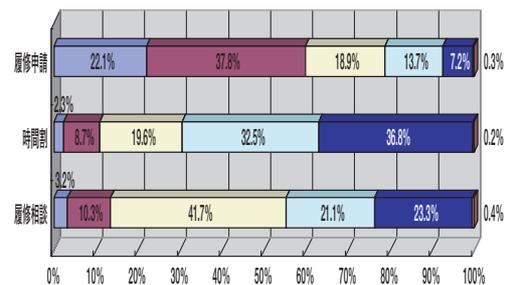
「全学共通科目への満足度」の平均値は2.86とさほど高くはなかった。

今後の課題として、学生達の全学共通科目への満足度を高めていく工夫が必要であろう。その機会は、全学FDセミナーでも部局のFDでも、あるいは教員の自己研鑽でも可能である。できれば、学外で実施されるFD研修会も組織的に利用したいものである。

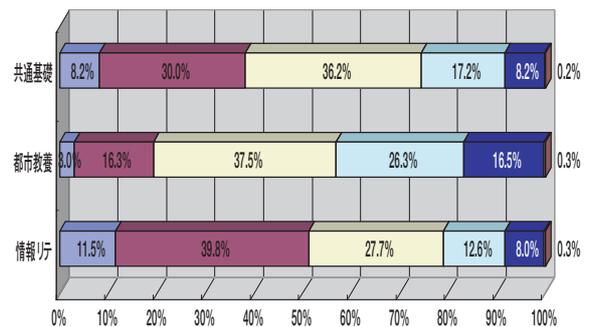
図表 1-1.全学共通科目の認知関係



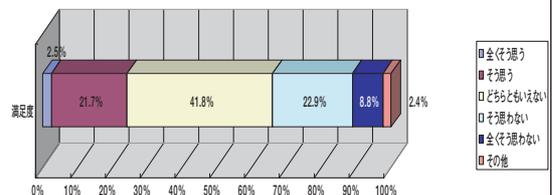
図表 1-2.履修関係



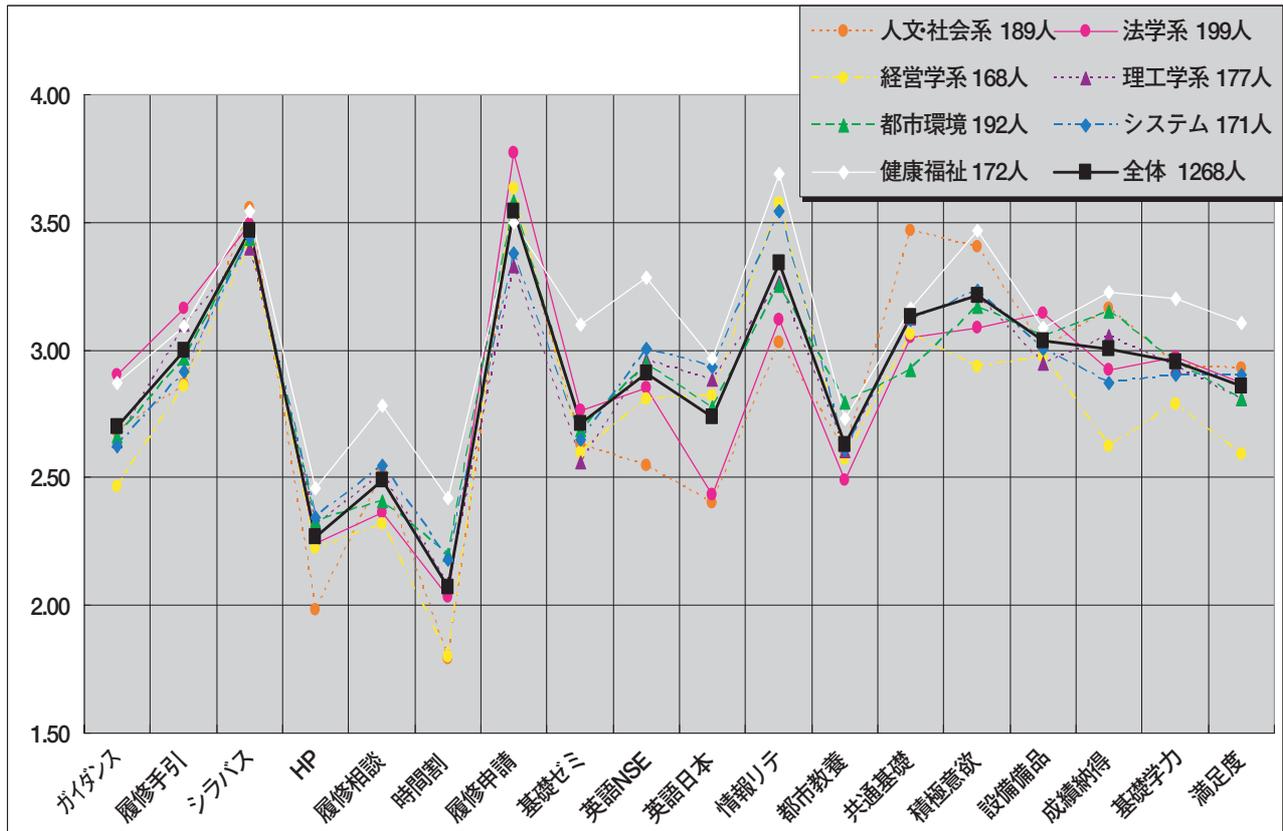
図表 1-4.都市教養科目群2



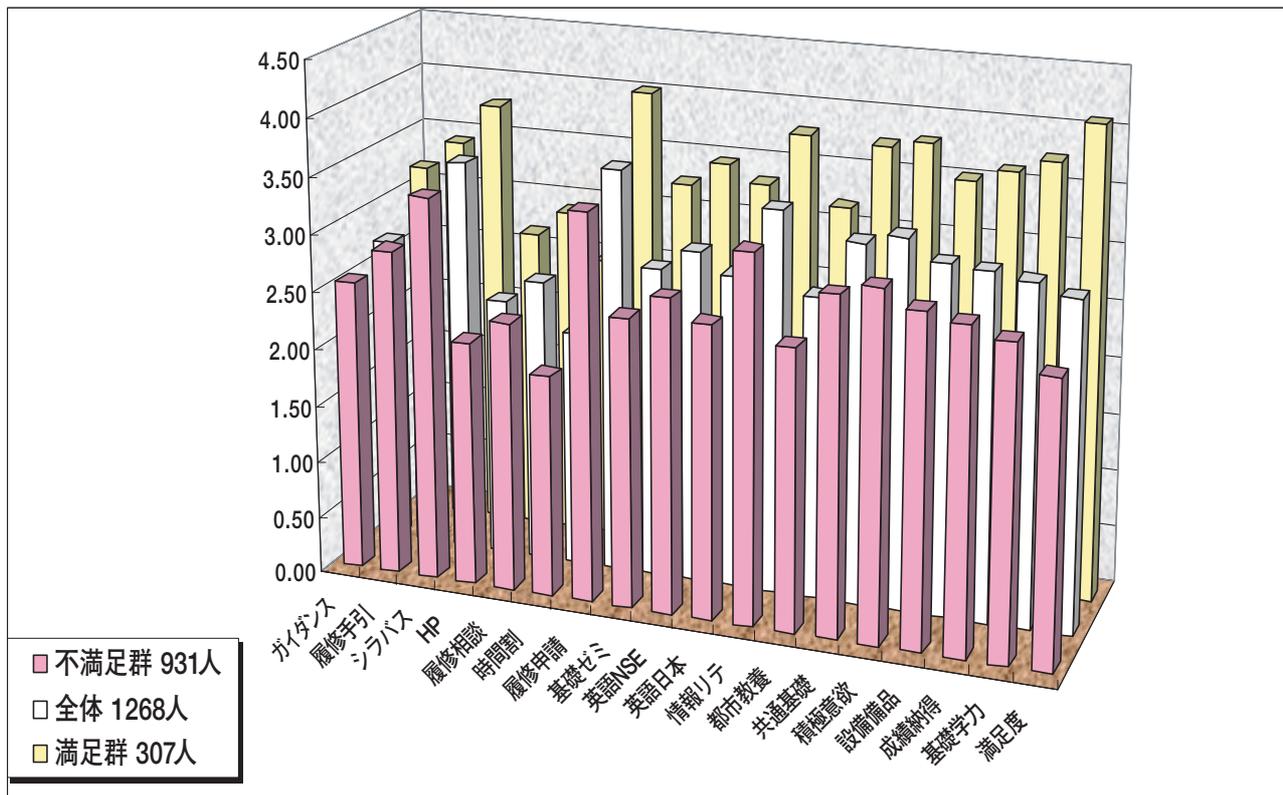
図表 1-6.全学共通科目への満足度



図表2. 7系列（学部・学系）比較



図表3. 満足・非満足群の平均値比較



全学共通科目 自由記述 キーワード集計

キーワード		kw1		kw2		kw3		合計	
		集計件数	割合 (%)						
1 カリキュラム	1-1 基礎ゼミ	35	4.9%	6	1.9%	2	2.9%	43	3.9%
	1-2 実践英語	104	14.5%	22	6.9%	3	4.3%	129	11.7%
	1-3 情報リテ	19	2.6%	12	3.8%	0	0.0%	31	2.8%
	1-4 都プロ	45	6.3%	37	11.6%	13	18.6%	95	8.6%
	1-5 基礎教育 仕組み	25	3.5%	23	7.2%	5	7.1%	53	4.8%
	1-6 第2外国 語	7	1.0%	15	4.7%	3	4.3%	25	2.3%
	1-7 専門科目	4	0.6%	4	1.3%	2	2.9%	10	0.9%
	1-8 教職科目	3	0.4%	3	0.9%	1	1.4%	7	0.6%
	1-9 その他	9	1.3%	8	2.5%	5	7.1%	22	2.0%
2	時間割	185	25.7%	29	9.1%	10	14.3%	224	20.2%
3	授業内容	74	10.3%	69	21.7%	12	17.1%	155	14.0%
4	施設設備	44	6.1%	11	3.5%	1	1.4%	56	5.1%
5	教員	40	5.6%	29	9.1%	6	8.6%	75	6.8%
6	大学改革	4	0.6%	3	0.9%	2	2.9%	9	0.8%
7	成績評価	20	2.8%	15	4.7%	1	1.4%	36	3.3%
8	シラバス	5	0.7%	5	1.6%	1	1.4%	11	1.0%
9	その他	96	13.4%	27	8.5%	3	4.3%	126	11.4%
合計		719	100.0%	318	100.0%	70	100.0%	1107	100.0%

カテゴリー	集計件数	割合 (%)
1.改善して 欲しいこと	381	53.0%
2.良かった と思うこと	124	17.2%
3.自由意 見	214	29.8%
合計	719	100.0%



<別紙調査票>

あなたの意見が授業を創る！

「全学共通科目（都市教養科目群と共通基礎教養科目群）に関するアンケート調査」

以下の設問に対して、マークカードの該当する箇所にHかHBの鉛筆でマークして下さい。

(マークカードの該当しない欄は空欄のままです。)

【あなた自身のことについて】

- 性別 1. 男 2. 女
学年 1. 1年
学系・学部等 1. 人文・社会系 2. 法学系 3. 経営学系 4. 理工学系 5. 都市環境 6. システムデザイン
7. 健康福祉

以下の質問について、次の5段階評価に従って最も適切と思われる番号をマークカードにマークして下さい。

全くそう思わない そう思わない どちらとも言えない そう思う 強くそう思う

1-----2-----3-----4-----5

【授業選択関連】

1. 4月初めのガイダンスで、全学共通科目の目的や授業内容、履修方法がよく理解できた。 1-----2-----3-----4-----5
2. 大学案内などで、全学共通科目の目的や授業内容、履修方法がよく理解できた。 1-----2-----3-----4-----5
3. 首都大学のホームページは全学共通科目の目的や授業内容、履修方法の理解に役だった。 1-----2-----3-----4-----5
4. 「履修の手引き」によって、全学共通科目の目的や授業内容、履修方法がよく理解できた。 1-----2-----3-----4-----5
5. 「シラバス」は授業科目を選択する際に役に立った。 1-----2-----3-----4-----5
6. 4月の履修相談や学修カウンセラーなど履修相談システムが履修に役立った。 1-----2-----3-----4-----5
7. 全学共通科目の時間割は満足できるものであり、取りたい授業を受講することができた。 1-----2-----3-----4-----5
8. 履修申請は問題なくスムーズに行うことができた。 1-----2-----3-----4-----5

【授業関連】

9. 「都市文明講座」の授業に興味をもって主体的・意欲的に取り組むことができた。 1-----2-----3-----4-----5
10. 「基礎ゼミナール」の授業によって大学生としての基本的な学習力が身に付いた。 1-----2-----3-----4-----5
11. 「実践英語」のNSEの授業によって、実践的な英語コミュニケーション力が身に付いた。 1-----2-----3-----4-----5
12. 「実践英語」の日本人教師の授業によって、英語の文章読解力が身に付いた。 1-----2-----3-----4-----5
13. 「情報リテラシー」の授業では、パソコンや情報の活用力が身に付いた。 1-----2-----3-----4-----5
14. 「都市教養プログラム」の授業で、都市に関わる課題を総合的に学ぶことができた。 1-----2-----3-----4-----5
15. 「共通基礎教養科目（未習言語、保健体育科目、その他の基礎教養科目）」の授業に興味をもって主体的・意欲的に取り組むことができた。 1-----2-----3-----4-----5
16. 全学共通科目に積極的に出席し、意欲的に学習することができた。 1-----2-----3-----4-----5
17. 全学共通科目で使用した教育機器や設備・備品は満足のいくものであった。 1-----2-----3-----4-----5
18. 前期の全学共通科目の成績評価は納得のいくものであった。 1-----2-----3-----4-----5
19. 全学共通科目を受講して基礎的な学力を身に付けることができた。 1-----2-----3-----4-----5
20. 今年度受講した全学共通科目は、全体として満足できるものであった。 1-----2-----3-----4-----5

【自由記述：マークカードの裏面に自由に記述して下さい。】

- ① 全学共通科目の授業を通じて、あなたが改善して欲しいと思うことはなんですか。
② 全学共通科目の授業を通じて、あなたがよかったと思うことは何ですか。
③ 全学共通科目の授業を通じて、他に気付いたことがあれば自由に意見を述べて下さい。

(ご協力有り難うございました。首都大学東京FD委員会、教務委員会基礎教育部会)